

最初は官許遊廓ゆうかくだった

ススキノ

多くの市民や観光客が楽しい時を過ごす北の歓楽街『ススキノ』について紹介します。

ススキノの起こりは、開拓使が意図的に設けた遊廓ゆうかくでした。

明治四年、札幌本府建設が再開されると、数千人の請負人、大工、職工たちが送り込まれました。このため、函館から商人を移住させましたが、そのほとんどが貸座敷、旅人宿などの接客業で、花街を形成するありさまでした。これらの業者を町のあちこちで営業させることは、取り締まりが難しく、また、風紀上も好ましくないこと



ススキノ（平成6年撮影）

から、南四、五条西三、四丁目の二町四方を区画し、この場所に遊廓を移してまとめました。これが、官許遊廓といわれるものです。

この遊廓は、岩村通俊判官により「薄野遊廓」と名付けられました。これは、この地を

選んだ薄井竜之工事監督の姓にちなんだものという説と、この一帯が茅野（すすきの別称）だったことから名付けられたという説があるようです。

大正九年になると、ススキノ遊廓は周辺の人口増加や、豊水小学校が近かったことなどの理由で、豊平川を越えた菊水に移転され、ススキノ遊廓としての歴史は終わりました。

その後、遊廓跡にはカフェ・バーなどの飲食店が立ち並び、現在のススキノネオン街発展の基礎をつくりました。

（平成六年十二月号・第十七回）



明治40年ころのススキノ
（札幌市教育委員会文化資料室所蔵）